

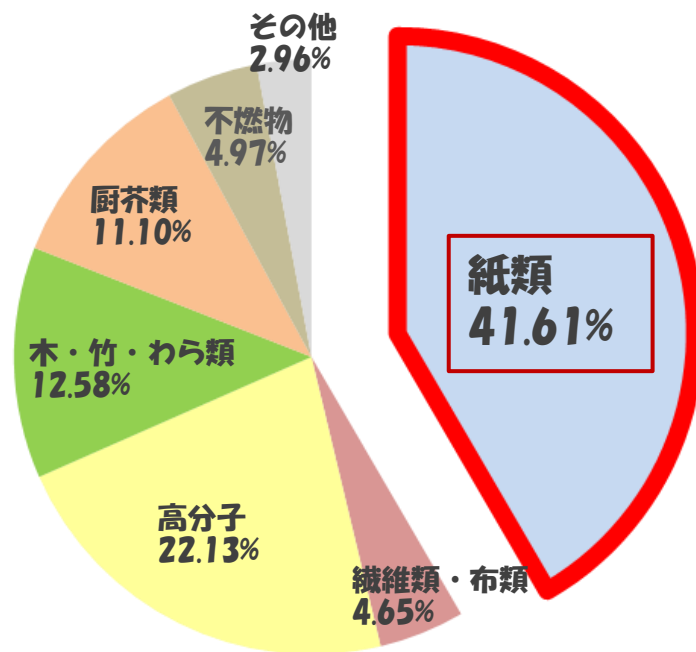
雑がみ分別モデル事業の実施結果について

◆ 趣旨

本市が焼却処理する可燃ごみのうち約42%は紙ごみであり、この中には、包装紙や紙箱などのいわゆる「雑がみ」と呼ばれるものが多く含まれています。

この「雑がみ」を資源として分別回収することで、燃やすごみの量を減らし、古紙類の回収量を増やすことができます。

可燃ごみの内訳（H28年度）



紙類が **約42%**！

重さに直すと… **15,000t**！ （燃やすごみ総量 36,054t ）

そこで、本市では、雑がみの分別回収を全市に展開することに先駆けて、
白檀町7丁目第1自治会 と 西新堂町自治会の皆さまにご協力をいただき、以
下の事項を目的とした「雑がみ分別モデル事業」を実施することとしました。

● モデル事業の目的

- ・ 雑がみ回収を全市展開した際の影響度の確認、課題の抽出・整理
- ・ 出来るだけ市民の作業負担を軽減した合理的な分別回収方法の知見の蓄積
- ・ 雑がみ分別に関する理解度の確認
- ・ 雑がみに求められる品質に関する知見の蓄積
- ・ 資源回収事業者の事業状況に関する情報の取得

◆ 事業概要

内容： 雑がみを雑誌類とあわせて回収しリサイクルする

期間： 平成 29 年 8 月 1 日 ～ 11 月 30 日（4ヶ月）

対象： 白檀町 7 丁目第 1 自治会、 西新堂町自治会

● 雑がみ（例）



● 出し方

次のいずれかの方法

- ▶ 紙袋に入れて出す
- ▶ 雑誌にはさんで出す
- ▶ 紙箱にはさんで出す



● 出す日、出す場所

- ▶ 出す日 … 集団回収の実施日に
- ▶ 出す場所… 他の資源物と並べて



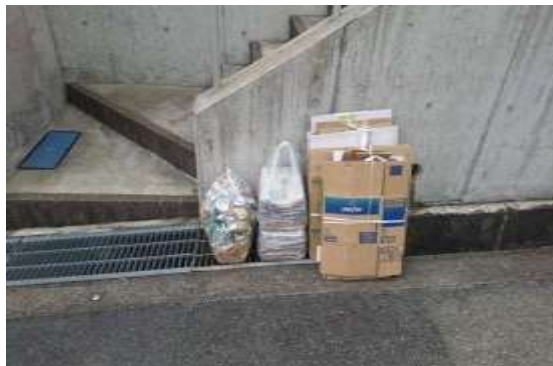
● スケジュール

7月	8月	9月	10月	11月	12月
・アンケート調査（実施前）	・排出状況調査 ・事業者へのヒアリング調査	・排出状況調査	・排出状況調査	・排出状況調査	・回収量集計 ・事業者へのヒアリング調査 ・アンケート調査（実施後）

◆ 排出状況調査結果

● 排出状況

＜実施前＞



＜実施前＞



＜実施前＞



＜実施中＞



＜実施中＞

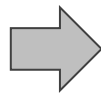


＜実施中＞



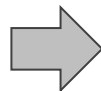
多くのご家庭から、他の資源物と一緒に「雑がみ」が出されていました

● 保管状況



回収された「雑がみ」は、雑誌と同じ場所に降ろされていました

● 分別状況



禁忌品の混入はありませんでした

◆ 回収量集計結果

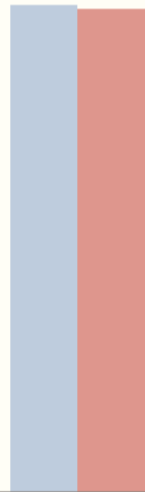
白檀町7丁目第1自治会

1ヶ月あたりの回収量

[kg / 月]

■ 開始前 ■ モデル事業実施中

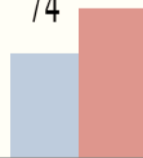
341 338



新聞

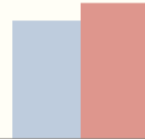
40%UP

74 105



雑誌

83 95



ダンボール

	新聞	雑誌	ダンボール
開始前(平均)	341	74	83

(直近1年間の回収実績より算出)

H29年 8 月	310	90	120
H29年 9 月	350	110	70
H29年10月	310	130	100
H29年11月	380	90	90
実施中(平均)	338	105	95

1ヶ月あたりの回収量

[kg / 月]

■ 開始前

■ モデル事業実施中

306 316

6%UP

85 90

233 228

新聞

雑誌

ダンボール

	新聞	雑誌	ダンボール
開始前(平均)	306	85	233

(直近1年間の回収実績より算出)

H29年 8 月	500	90	860
H29年 9 月	300	190	110
H29年10月	460	90	60
H29年11月	320	80	110
実施中(平均)	316	90	228

注: H29年8月は2ヶ月分の量

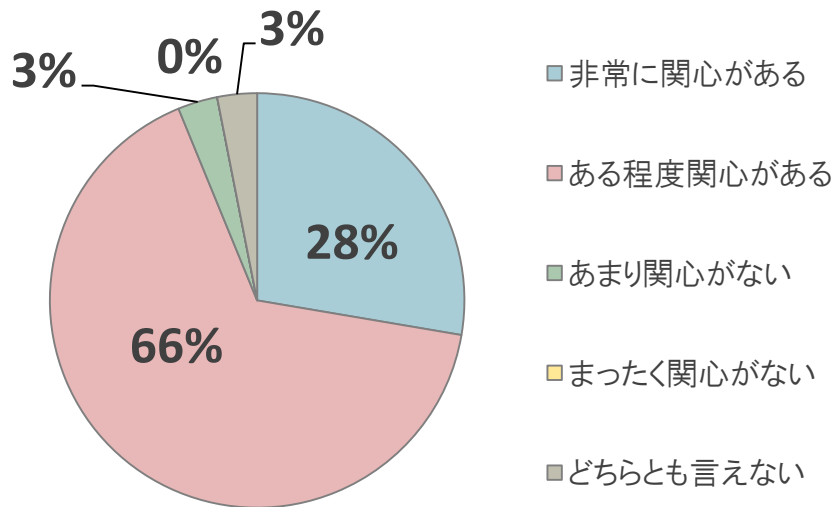
両地区を総合すると、雑誌の回収量は 約 23% 増加しました

◆ アンケート調査結果

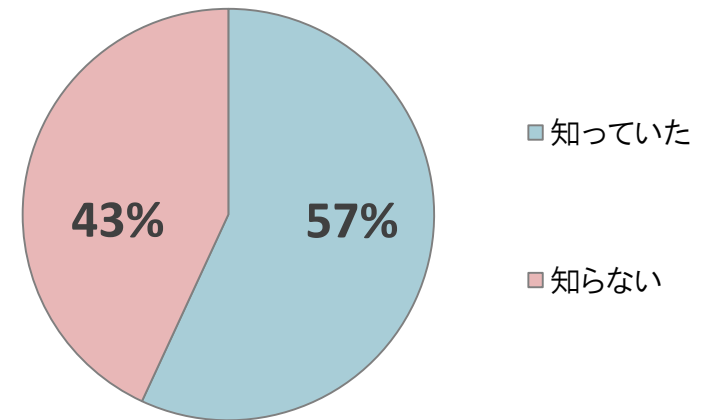
	実施前	実施後
配布数	126	126
回収数 (回収率)	65 (51.6%)	69 (54.8%)

※ アンケート用紙の配布・回収は、自治会役員の皆さまにご協力をいただきました

Q. あなたはごみの減量や資源化に、どの程度関心をお持ちですか。



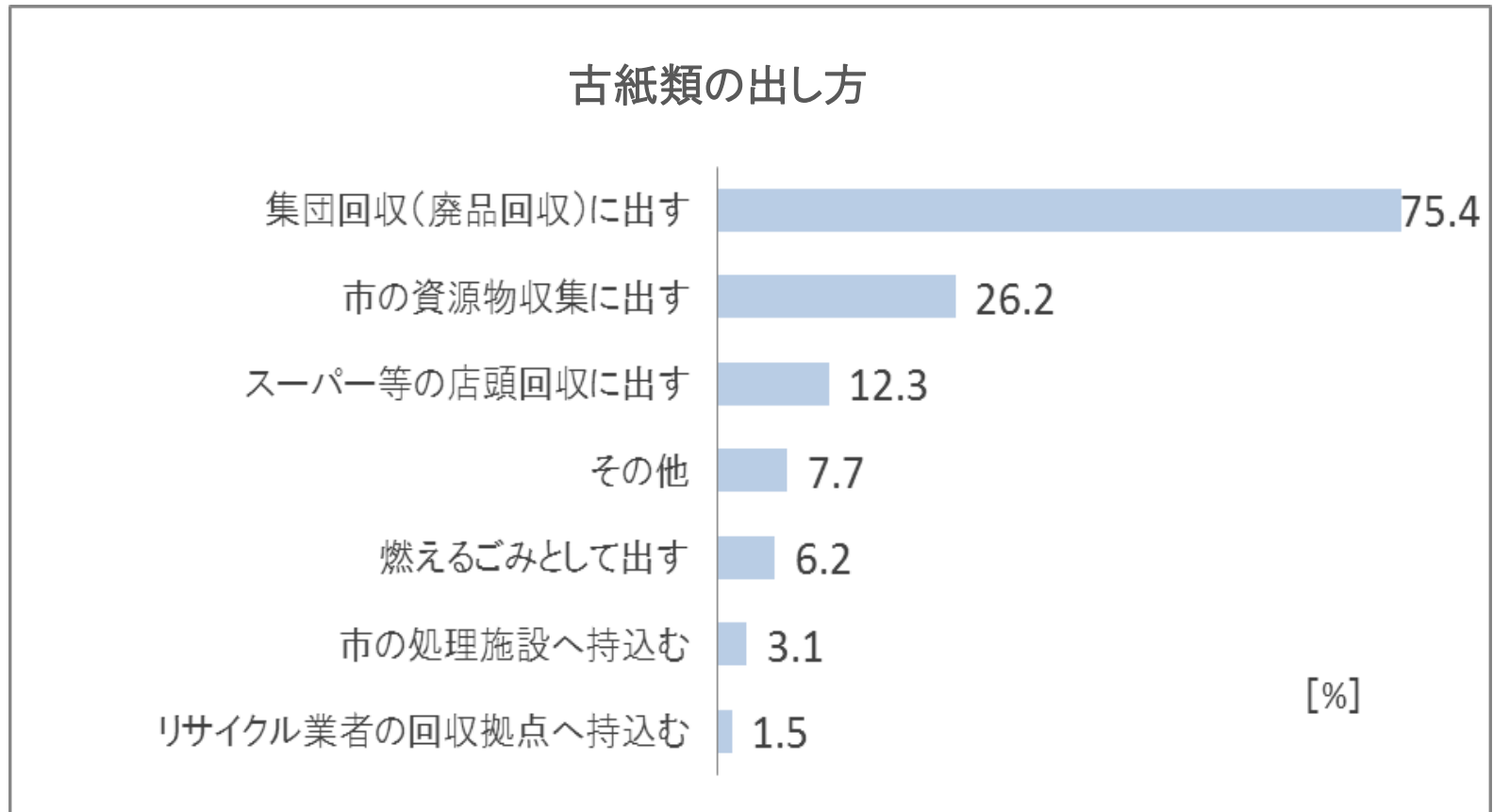
Q. 菓子箱や包装紙などの雑がみは、古紙として有効活用できることを知っていましたか。



9割以上の方が関心をお持ちですが、「雑がみ」をご存知の方は6割でした

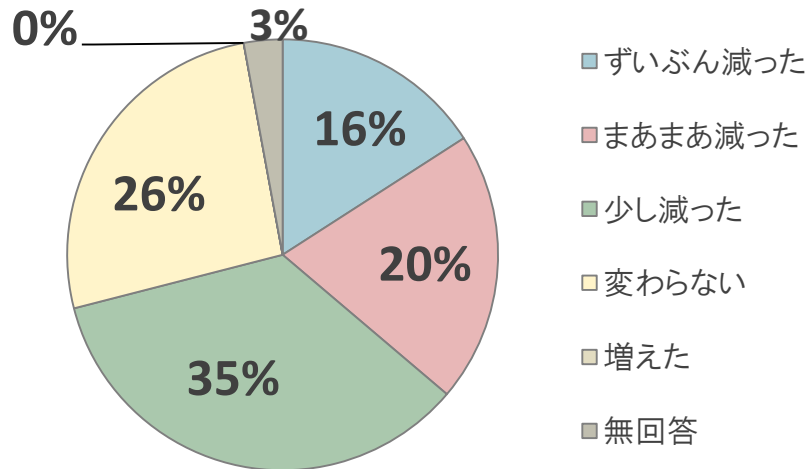
Q. 資源化できる紙類（新聞、雑誌、段ボールなど）はどのように出されていますか。

（複数回答可）



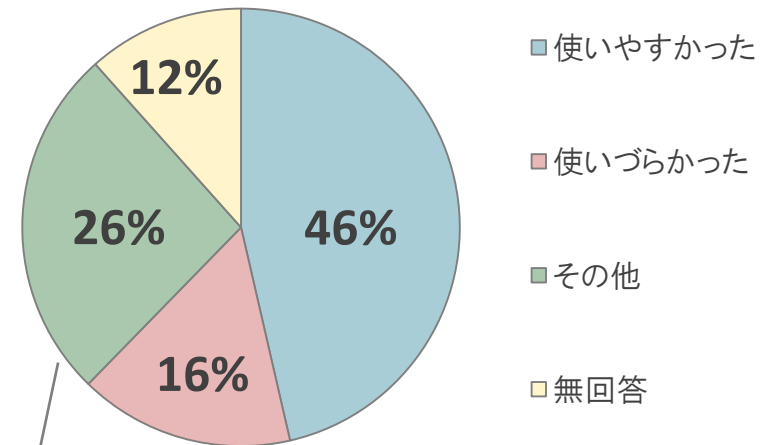
7割以上の方が集団回収を利用されています

Q. モデル事業実施前と比べて、あなたの家庭から出る可燃ごみの量に変化はありましたか。



7割以上の方が「ごみの量が減った」と感じておられます

Q. 配布した雑がみ回収袋はいかがでしたか？

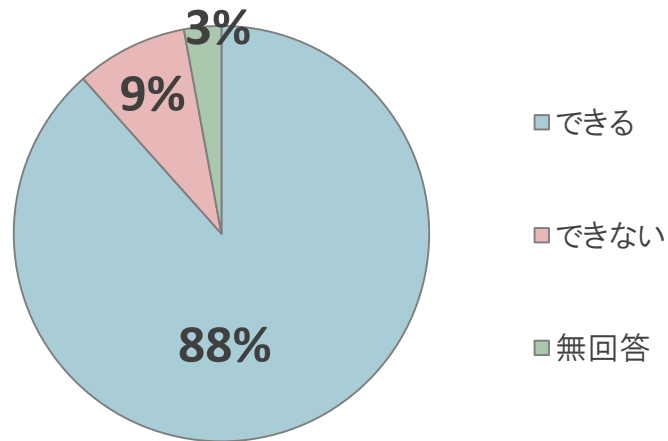


様々なご意見をいただきました

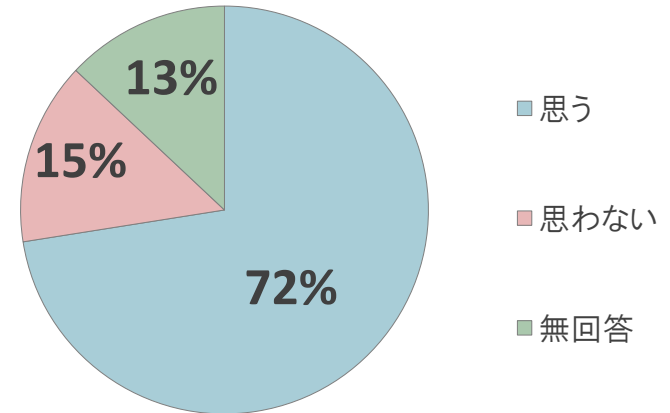
(ご意見)

- ・ 上等すぎる、もっと薄い紙質でよい
- ・ もう少し大きい方がよい
- ・ 他のもので代用した、使用していない

Q. 今後も雑がみ分別ができそうですか？

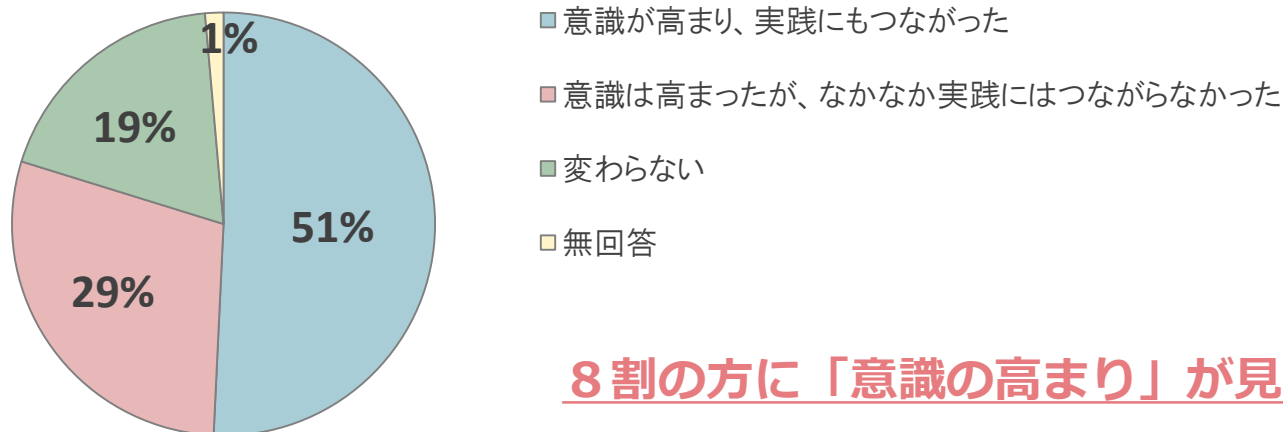


Q. 檀原市は雑がみ分別を進めていくべきだと思いますか？



9割の方が「今後も継続して実施できる」と回答されました

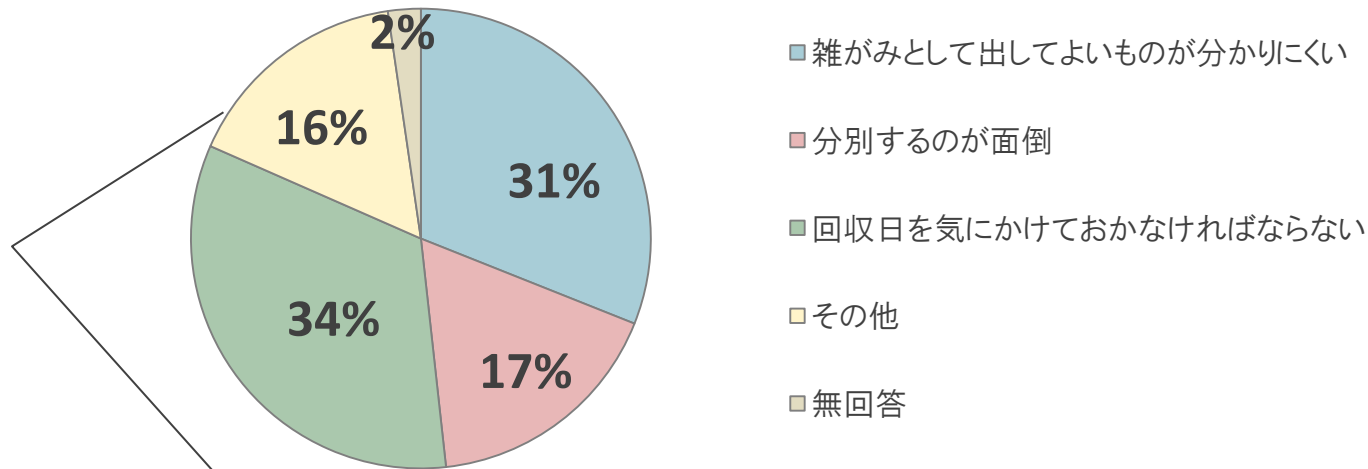
Q. モデル事業を通じて、ごみの減量や資源化に対する意識に変化はありましたか？



8割の方に「意識の高まり」が見られました

Q. 雑がみを分別する際の問題点をお聞かせください。

(複数回答可)



(ご意見)

- ・ 回収袋を置いておくスペースが増えて面倒だ
- ・ 回収日が月に1回は少ない
- ・ 市内全体の分別意識向上には長期間を要する

雑がみの分け方や出し方について、負担感のない分かりやすい案内が必要

Q. その他、雑がみ分別に関して、ご意見・ご要望等ございましたらご記入下さい。

(賛同意見)

- ・ 協力します、継続します
- ・ 以前から実施を望んでいた、良いことだと思う
- ・ これぐらいならば負担にならない

(質問)

- ・ シュレッダー紙は雑がみとして出せないのか
- ・ 臭いのついたものはなぜ対象にならないのか
- ・ 個人情報に記載されたものの管理はどうなるのか

(要望)

- ・ 分別が細かすぎてこれ以上増えないことを願う
- ・ もう少し詳しい説明がほしい
- ・ 分かりやすい分別基準にしてほしい
- ・ 前処理作業はあまり負担にならない程度にしてほしい

多くの方から賛同の声とともに質問や要望等が寄せられました

◆ 資源回収事業者ヒアリング調査結果

調査にご協力いただいた資源回収事業者さま

- ・ 仲商店株式会社
- ・ 福井紙産業

～ 「雑がみの分別回収の導入」について、どのように思いますか。 ～

- ・ 良い取り組みなので是非進めてほしい、協力する
- ・ 回収業者から案内するよりも、行政からの案内が市民には効果がある
- ・ 禁忌品の案内は、必ず守ってほしい必要最低限の内容でよい
- ・ 市民からの問い合わせには、『雑誌と一緒に出して下さい』と案内している
- ・ すでに実施している人も多いが、分別の仕方がバラバラである

多くの賛同の声をいただきました

禁忌品の案内は簡潔明瞭に！

～ 「雑がみ」を出す場合、どのようなことに気を付ける必要がありますか。 ～

- ・ 「雑がみ = 雑多な紙」 として広く捉えてほしい
- ・ 確実に可燃ごみが減る取組みなので、少しずつできる範囲から実践してほしい
- ・ 判断に迷ったときや、作業が負担と感じるときは、可燃ごみへ出すように
- ・ すでに実施している人も多いが、分別の仕方がバラバラである

できる範囲から少しずつ実践、迷ったら「可燃ごみ」へ

～ 資源回収事業者の立場から、排出者に改善してほしいことはありますか。～

- ・ 新聞やダンボールに雑がみを混ぜて出されるケースが多く、苦慮している
- ・ 禁忌品を出さないことに尽きる

禁忌品を出さない！ 新聞、ダンボールに他の紙類を混入させない！

◆ まとめ

排出状況調査結果

- ・ 回収された「雑がみ」は、雑誌と同じ場所に降ろされていた
- ・ 多くのご家庭から、他の資源物と一緒に「雑がみ」が出されていた
- ・ 禁忌品の混入はなかった



雑がみという新たな分別区分を設ける必要性は低い

回収量集計結果

- ・ 両地区を総合すると、雑誌の回収量は 約23 % 増加した



市全体に展開した場合、年間で約145トンの回収量増加が見込める

- ・ 9 割以上の方が、ごみ減量や資源化に関心を持っている
- ・ 7 割以上の方が、集団回収を利用している
- ・ モデル事業を通して、8 割の方に「意識の高まり」があった
- ・ モデル事業を通して、7 割以上の方が「ごみの量が減った」と感じた
- ・ 9 割の方が、「今後も継続して雑がみ分別を実施できる」と回答された



集団回収活動と関連づけた普及啓発が効果的

- ・ 禁忌品の案内は簡潔明瞭にするのが良い
- ・ 多くの方から質問や要望等が寄せられた



負担感や抵抗感に配慮した案内や情報提供が必要

◆ 今後について

この取り組みを市全体に導入するにあたり、「雑がみ」という新たな分別区分の設定や明確な導入日を謳った広報等は、市民に負担感や抵抗感を抱かせることに繋がります。

従いまして、すでに実施している地域（個人）が基点となって自然に広がるような形を目指して、次のことを継続的に行っていく必要があると考えています。

- 現行の分別区分「雑誌」について、「雑がみ」も含めた案内に改め、早期に広報誌や市ホームページ等で広く周知する
- モデル事業で得たノウハウをもとに、分かりやすいパンフレット、分別リスト、Q & A等を作成して、雑がみ分別に関する有効な情報として積極的に市民に提供する
- 「雑がみ分別」を始めようとする団体等に対して、市職員による説明会を開催する等のサポートを実施する

Q & A

Q. シュレッダー紙は雑がみとして出せないのか

A. 収集・保管選別時に飛散する恐れがあること、紙の繊維が短くなり再生紙の品質が低下する恐れがあることなどの理由から、可燃ごみに出していただくように案内しています。

Q. 臭いのついたものはなぜ対象にならないのか

A. 処理工程で完全に脱臭できず再生紙に異臭が残るためです。

Q. 個人情報記載されたものの管理はどうなるのか

A. 個人情報記載された部分を切り取って出す、塗りつぶして出すなどの対策をご自身で行っていただく必要があります。